

滋賀県における小児慢性特定疾患

富和 清隆, 越智 純子

要約: 滋賀県小児慢性特定疾患患者の疫学を平成元年の医療給付台帳により検討した。申請総数は1529件で、疾患、年齢分布とも全国調査に類似していた。滋賀県の地域特性としては、糖尿病を除く、すべての疾患で他府県への依存が13～46%、全体として27%にみられたことである。交通の便が医療の県外依存を高めていると考えられるが、小児慢性疾患児のトータルケアを実施する上で、地域の専門医療機関の整備が本県の課題である。

見出し語: 小児慢性疾患, 地域特性, 医療機関

〔目的と方法〕 滋賀県の小児慢性特定疾患の保健医療需要を明らかにするため、平成元年の小児慢性特定疾患治療研究受給対象者について、医療給付台帳に基づき、その性別、年齢別、地域分布を明らかにし、医療機関の受診状況について検討した。

〔結果〕 滋賀県の平成元年における総受給者数は1529名で、疾患群別の受給者内訳及び、男女別は表1に示す通りであった。地域別にみた対象患者の疾患群別患者比率に地域的なかたよりはなく、ほぼ全国の患者比率と同様であった。対象者の年齢は3～8才が最も多く、この範囲に全体の40.2%が含まれた。慢性心疾患、代謝異常は患者年齢

層が低く、気管支喘息、内分泌疾患、糖尿病は年齢層が高い傾向にあった。患者の受診医療機関は表2に示すごとく、県内のみならず広く県外（京都府、大阪府）の病院に及んでおり、悪性新生物慢性心疾患、代謝疾患にその傾向が著明であった。申請患者数50名以上の病院は県内に6病院あり、この6病院で患者の45.4%を占めていた。しかも、湖南地区の3病院に患者の29.1%が集まっていた。さらに、表3にみられるように、104名(6.8%)の患者が1年以内に同一の疾患で複数の医療機関を受診しており、悪性新生物、代謝疾患で複数の医療機関受診者の比率が高かった。

〔考察〕 小児慢性疾患のトータルケアを考えるう

滋賀県立小児保健医療センター, 保健指導部

The medical center for children, Shiga

えで、その疫学と保健医療需要を明らかにすることは重要なことである。小児慢性疾患の疫学を知るには、滋賀県では、小児慢性特定疾患医療給付台帳が唯一の資料であり、これに基づく分析を行った。平成元年の滋賀県における給付者総数1529名の疾患群別、年齢別、性別分布は、全国調査とはほぼ同様であり特徴的なものはなかった。受診医療機関をみると、人口の集中する県南西部の大病院で患者総数の29.1%を占めている。さらに交通上近距離にある京都・大阪に依存する率が高い。大病院の湖南地区への集中や他府県病院への依存率が高い結果として、患者が、診断・治療の目的で同一疾患で複数の医療機関を受診する割合が高いのも、特徴のひとつといえよう。昭和60年度に、小児保健医療センター開設準備に際して県が行なった、小児慢性特定疾患の受療者に対するアンケート調査と、今回の調査を比較してみると患者総数にわずかな増加がみられる以外、疾患群別患者比率等に変化はみられない。県外医療機関への依存にも大きな差はなく、患者の効率よいトータルケアを行なう上で、今後の課題と考えられた。

〔文献〕加藤精彦，大山建司：小児慢性特定疾患の医療給付台帳に基いた疫学調査とその問題点に関する研究。昭和58年度厚生省班会議報告書，P 102～P 107

小児慢性特定疾患アンケート調査（滋賀県）：昭和60年度（未発表）

疾病 性別	悪性 新生物	腎疾患	ぜん そく	慢性 心疾患	内分泌	膠原病	糖尿病	代謝 異常	血液 疾患	計
男	106	195	64	256	82	19	14	40	74	850
女	86	136	24	242	87	16	21	34	31	679
計	194	331	88	498	169	35	35	74	105	1529

表1 小児慢性特定疾患治療研究対象者数

医療機関 疾病	県内病院 (医院)	県外病院 (医院)	計
悪性新生物	117 60.3%	77 京都 60 大阪 1 39.7%	194 100%
腎疾患	268 81.0%	63 京都 28 大阪 32 19.0%	331 100%
ぜんそく	80 91.0%	8 京都 3 大阪 4 9.0%	88 100%
慢性心疾患	339 68.1%	159 京都 94 大阪 54 31.9%	498 100%
内分泌疾患	113 66.9%	56 京都 39 大阪 8 33.1%	169 100%
膠原病	32 91.4%	3 京都 2 大阪 0 8.6%	35 100%
糖尿病	35 100%	0	35 100%
代謝異常	40 54.1%	34 京都 30 大阪 4 45.9%	74 100%
血液疾患	91 86.7%	14 京都 9 大阪 2 13.3%	105 100%
計	1115 72.9%	414 京都 265 大阪 105 27.1%	1529 100%

表2 受診医療機関

(一年以内)

疾病 (延人数)	機関				計
	2	3	4	5	
悪性新生物 (194)	20	3	1	0	24 (12.4%)
腎疾患 (331)	13	0	0	0	13 (3.9%)
ぜんそく (88)	1	0	0	0	1 (1.1%)
慢性心疾患 (498)	37	1	0	0	38 (7.6%)
内分泌疾患 (69)	7	0	0	2	9 (5.3%)
膠原病 (35)	1	0	0	0	1 (2.9%)
糖尿病 (35)	1	0	0	0	1 (2.9%)
代謝異常 (74)	9	0	0	0	9 (12.2%)
血液疾患 (105)	7	1	0	0	8 (7.6%)
計 (1529)	96	5	1	2	104 (6.8%)

表3 複数受診医療機関



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:滋賀県小児慢性特定疾患患者の疫学を平成元年の医療給付台帳により検討した。申請総数は 1529 件で、疾患、年齢分布とも全国調査に類似していた。滋賀県の地域特性としては、糖尿病を除く、すべての疾患で他府県への依存が 13～46%、全体として 27%にみられたことである。交通の便が医療の県外依存を高めていると考えられるが、小児慢性疾患児のトータルケアを実施する上で、地域の専門医療機関の整備が本県の課題である。